

# いつも一緒 富山のペットたち

ペットのお尻や口から、ひものようなものが垂れ下がっているのを目にしたことはないでしょうか。そんな時は、決して無理やり引っ張り出さずとほしんでください。すぐに引き抜けばよいですが、簡単に引き抜いたら、腸や食道を傷つけたり腸腸を起したりするかもしれません。



ちょっと汚いですが、ひものようなものを肛門や口の近くで切り、それを持って獣医師にご相談ください。もしかしら、マンソン裂頭条虫という名前のサナダムシかも知れません。条虫は平べったい体をしていて、よく観察すると体に横線がほぼ等間隔で入っているのが分かります。結構丈夫で、引っ張っても簡単に壊れません。

マンソン裂頭条虫が体内にいると、栄養不良や下痢、軟便などの症状が現れるかもしれません。でも、イヌやネコは、命に関わるようなことはありません。最大の害は、口やお尻から垂れ下げて歩くことが人間にとって非常に不快で気持ち悪いということかも知れません。

人にはうつりませんが、イヌやネコがマンソン裂頭条虫に寄生されていても、飼主にうつる心配はありません。

となみペットクリニック院長  
(砺波市高道)

前田 洋行

## イヌ・ネコの条虫症



サナダムシに感染すると、下痢や軟便などの症状が出る。ノミの寄生に気を付け、定期的に検便をしよう

# 検便しノミに注意

サナダムシの生活環境は「中間宿主」を必要とします。ケンミシ(フランクトン)がマンソン裂頭条虫の卵を食べると、条虫はケンミシの体内で幼虫として成長します。次にカエルが幼虫を食べて成長します。イヌやネコなどがカエルを食べると、条虫は初めて成虫になるのです。このように経路を辿らねば、条虫はペットには寄生しません。でも人間にうつることはないので、人間にうつる心配は少ないです。

ただ、人間も「待機宿主」になり得ます。カエルや、カエルを食った人間も「待機宿主」になり得ます。人間にもうつることがあります。人間は本来寄生するものではないので、成虫にならず、幼虫として皮膚の下などにコブとなり、イヌやネコに食べられるのを待つこととなります。人間がイヌやネコに食べられることはありませんが、寄生からすると、人間もそのような扱いになってしまいます。

マンソン裂頭条虫がペットのお尻などから出てきた白いゴマ粒が動いていることもあって、不快の上な気持ちになります。

### 感染すると下痢

また、ウンチの表面や肛門付近に、白いゴマ粒のようなものが付いているのを見つけたことはないでしょうか。このようなものを引っ張り出して、獣医師にご相談ください。もしかすると、瓜実条虫というサナダムシかも知れません。

瓜実条虫も、マンソン裂頭条虫のようには、ペットに対する害は下痢などを引き起こす程度です。ただ、出てきた白いゴマ粒が動いていることもあって、不快の上な気持ちになります。

瓜実条虫は中間宿主としてノミを必要とします。イヌやネコが自分の体をなめている時、幼虫がいるノミを噛み取って食べてしまうことで感染します。マンソン裂頭条虫と違って、中間宿主はノミだけではありません。

ノミが付いていけば、瓜実条虫がおなかに入る可能性があります。ノミはしっかりと駆除しましょう。マンソン裂頭条虫とは違い、検便で瓜実条虫の存在を確認するのは難しく、ノミの駆除による予防が一番重要です。

ノミをつぶして飛んだ体液が誤って人間の口の中に入ると、子どもや幼児に瓜実条虫が感染する可能性があります。人の体内で成虫になり、おなかの中に入ってしまうことがあります。まれに下痢や腹痛があるようです。



マンソン裂頭条虫。体は丈夫で、等間隔に横線が入っている

ペットにサナダムシが寄生しても、病害的に重大なことはあまり起こりませんが、やはり気持ちの悪いものではないでしょうか。定期的な検便をして、ノミの寄生に注意していただくといいです。

「いつも一緒 富山のペットたち」は、毎月第1木曜日に掲載します。

2014年(平成26年)4月3日  
北日本新聞